

未来へ(東中だより)

第19号 令和4年3月24日

吉野ヶ里町立東脊振中学校 校長 森田 直樹

学校教育目標 未来へ
「知性・感性・耐性」を
共に高める生徒の育成



TEL:0952-52-2529 Fax:52-8184

<https://www.education.saga.jp/hp/higashifuri-j/>

東中生の誇りを胸に 卒業証書授与式 3月11日

地域の皆さまを来賓としてお迎えすることはできませんでしたが、伊東健吾町長様のご臨席のもと、第75回の卒業証書授与式を挙行することができました。町長様や教育委員会の皆様からは、大変感動的な卒業式だったとお言葉を頂きました。卒業生には、洋々たる前途に向けて、以下のような餞の言葉をかけました。

「今年度も、新型コロナウイルスの関係で様々な行事に苦心した一年でした。その中でも皆さんは、自分の活躍の場を見つけ、『出番・挑戦・承認』の言葉通り、伸び伸びと活動してきました。体育大会、部活動、文化発表会、合唱コンクール、修学旅行、生徒会活動など様々な場面で、皆さんはこの状況の中でも、楽しみを見つけ、作り出し、活動の主人公になっていました。この子達は将来、きっとたくましく生きていけようかと感心したものです。

佐賀の七賢人の中で、歴史に詳しい人が真っ先に挙げるのが、『鍋島直正]公です。幕末の佐賀藩主として欧米列強への備えにいち早く取り掛かり、学問を奨励し広く藩校で学ばせたと言われています。反射炉を造り、蒸気機関の船を造り、オランダ語や英語を奨励しました。直正公がいなければ、大隈重信も江藤新平も佐野常民も育てていません。

書物を読みますと、藩の財政改革に積極的に取り組む傍らで、台風で倒れたままの家に住む人々を見て、今で言う臨時給付金を支給しています。庶民の暮らしの大切さを知る人物だったのです。本日なぜ直正公の話をしたのかというと、藩主になったのが17歳の時だったと知ったからです。10代での藩主だったため、藩の改革は、家臣の反対に合ってうまくいきませんでした。しかし、自分の信念を曲げず藩のため、今で言えば佐賀県のために尽力したのです。だからこそ、今なお賢人と呼ばれるのでしょう。

先日の全校集会で、私は『これからの新しい時代に長く生きることができる中学生を、うらやましく思います。』と述べました。『不透明な時代』と言われるますが、それは逆に言えば、可能性に満ちた『ワクワクする時代』です。AI やIoT が身近になり、これまでの仕事がいづつかなくなります。新しい仕事を生み出す時代でもあります。

全ての人間が新しい仕事を生み出す立場になれないかもしれませんが、直正公のようにチャレンジすることはできません。皆さんも、本校卒業生という誇りと、高い志をもって、これからの『新しい社会』を生きてください。その時に、この東脊振中での経験や、培った『知性・感性・耐性』はきっと役に立つことと思います。

卒業生の、しなやかでたくましい前途を祈念しています。」



<表彰 3年生分>

○皆勤賞3年間 青木佑衣 片山由紀恵 岩永まりあ
小瀬一輝 古舘和武

1年間 久保遼太 長野笑和 村口七星 大野碧天
小野雫来 小池快士 朝長海翔 中川泰史
牟田杏風 村岡さらさ 山崎姫楽

○町教育委員会表彰 教育奨励賞 小瀬一輝

学芸賞 眞島 芽 松尾咲耶 中村佑菜 吹奏楽部

体育賞 山本結月 門田幸輝 宮原優来

女子バレーボール部 女子卓球部

勤労賞 長野笑和 古舘和武 読書賞 小宮 涼 朝長海翔

明朗賞 青木佑衣 小田悠貴 奉仕賞 冨田涼那 小野雫来

○学童美術展 立体部門 地区入選

城尾太陽 福成朱里 牟田口昊 山崎姫楽

生徒会役員との懇談会

3月17日に生徒会役員を校長室に招いて、懇談会を行いました。新役員は12月に生徒会を引き継ぎ、活動に取り組んでいます。



リーダーとして成長著しい新役員に、現在の課題について語っていただきましたので、以下に掲載します。

<本部・総務(中山・大園・石川)>

「校歌を大きな声で歌うことを目指したい。また、時間にルーズになってきている人がいるので、それも改善していきたい。」

<保健・体育(中村・原)>

「球技大会など、生徒が楽しめる企画を実践したい。」

<学習(中山・高橋)>

「テストで学年平均7割の目標を達成していないので、月1満点テストなど工夫をして行く必要がある。」

<美化・奉仕(陣ノ内・築山)>

「環境整備の徹底が必要。掃除の時、机をひきずって教室の床を傷つけている場面がある。また、地域の人のためにできることをふやしていきたい。」

<図書・広報(嘉村・富永)>

「図書室でのマナーを高めることが大切。また、広報にも力を入れていきたい。」

<生活(小西・原口)>

「まだ挨拶が全然よくないので、きちんとできる雰囲気作りを行いたい。休み時間の過ごし方も課題である。交通安全については、並進があるので改善したい。」

<表彰 1. 2年生分>

○皆勤賞1年間 井上輝琉 井上陽和 柿添紗季 久保山蓮 北嶋蒼一郎 筒井 広 長野望虹奏 中村 奏 牧 日菜 湯川愛音 石井璃衣子 泉 優太 真子拓巳 宮原澄羽 向井友梨奈 湯田隼士 小西奏太 高橋真由 久野双葉 鶴崎生真 栢木華凜 原 斗佑真 原 優佳 平川滉士 廣瀬結空 青木一朗 大園樹璃 築山侑人 中村颯希 平尾拓也 牟田口梓音

○町教育委員会表彰

学芸賞 中島菜奈 久野双葉

体育賞 吉富愛歌 平 陵太郎 元石暖華

勤労賞 北嶋蒼一郎 池田和香 石川和樹 中山 允

読書賞 井上陽和 堀田憲生 鶴崎生真

明朗賞 多良 碧 峯丈一朗 泉 優太 大園樹璃 陣ノ内すみれ

奉仕賞 西村成未 中島健登 中山靖詞

○学童美術展 立体部門

県準特選 井上輝琉 陣ノ内すみれ

地区入選 中村智亮 筒井沙和

○ニツク杯卓球選手権大会

第3位 吉富愛歌



2年生 立志式 3月15日

日本では古来より立志の儀式を、大人の仲間入りを祝う男子の「元服」、女子の「髪あげ」の年齢に行われていきました。志を立て社会に生きていく転換点となる日です。

2年生一人ひとりが、それぞれが自分の目標達成のための座右の銘を示しました。己の生きる指針としての座右の銘をもつこと、それは大変重要なことだと思います。生徒の人生の心張り棒となるものと信じています。

式の中では、古賀敏正教育長様にお祝いの言葉と「出藍の誉れ」についてのお話をいただきました。また、教育長様の少年時代の思いや教師を目指した逸話についても語っていただき、後輩への熱い思いを感じました。



校長の式辞で、私は小倉智昭さんというアナウンサーの記事について話しました。小倉さんが「吃音の少年」だったという話です。吃音とは一般的に「どもり」と言われ、言葉が出てこない症状です。母親が病院に行こうといいますが、小倉少年は、自分で治すといって、本の音読や話す練習を繰り返し、なんとNHK 児童劇団に入ったりしています。

大学卒業後、小倉さんはフジテレビとテレビ東京を受験します。面接で「吃音症を克服したくて応募した。」と言ったら驚かれたと話しています。からかわれたり、馬鹿にされたりしても困難を克服しようというたくましさ、私はすごいと思いました。生徒の皆さんにも、高い志をもって困難を克服すべくたくましく生き抜いてほしいと願っています。



ちょっと嬉しい話

♥先日、石動にお住まいの女性から嬉しいお電話がありました。聞けば、「自転車での下校中の3名の男子生徒が、舗道の倒木や枝をきれいに片付けてくれていました。近頃にしては珍しい良い光景でした。」とのこと。

さらに、この拙い学校だよりも読むのが楽しみだということで、こちらが温かい気持ちになりました。ご連絡、ありがとうございました。

